

かつて魔王を封印した
伝説の大賢者サフィラ

彼女は魔王討伐の
恩賞として
国に生活を
保障されており

のんびりと自分の
好きなことをしながら
自堕落気味に
長い時を過ごしていた

国王様からの
勅命ですって？

はい
サフィラ様の力を
お借りしたいと
仰っています

とある犯罪組織の
摘発にご尽力ください





それは…
犯罪組織に国の重鎮が
関わっている噂があるためかと

でもなんでいまさら
私を駆り出すのかしら？



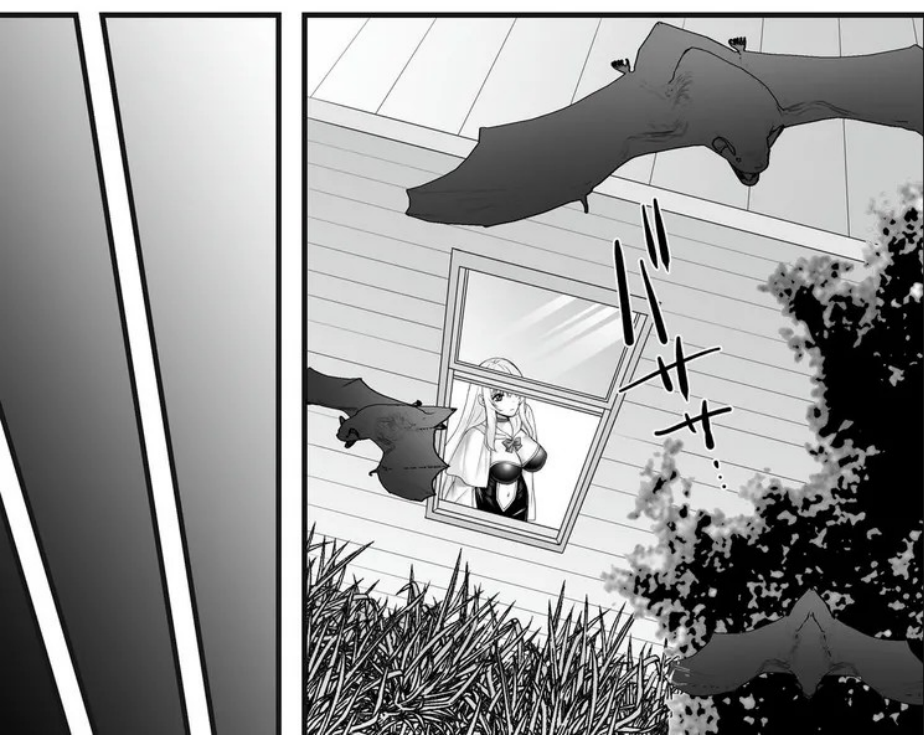
はあ…
まあいいわ
勅命は無視できないし



馬鹿貴族はまだ派閥とか
なんだとやっているの？

貴族って何十年経っても
やることが変わらないのね

その馬鹿貴族どもを
いつまでも御し切れない
王族も王族だけど



ささつと終わらせて
しまいましょうか

思ったより手強いわね

最近は使い魔への対策が
しっかり取られているのね

昔はガバガバだったのに

それでも相手の全貌は
かなり掴めてきたわね

それにしても
とんでもない犯罪組織ねえ

違法薬物に奴隷調教から売買
外来魔物の密輸に使役……

明らかに複数の貴族も
関わっているみたいだし……

これ以上は
使い魔で探るのは時間の無駄ね

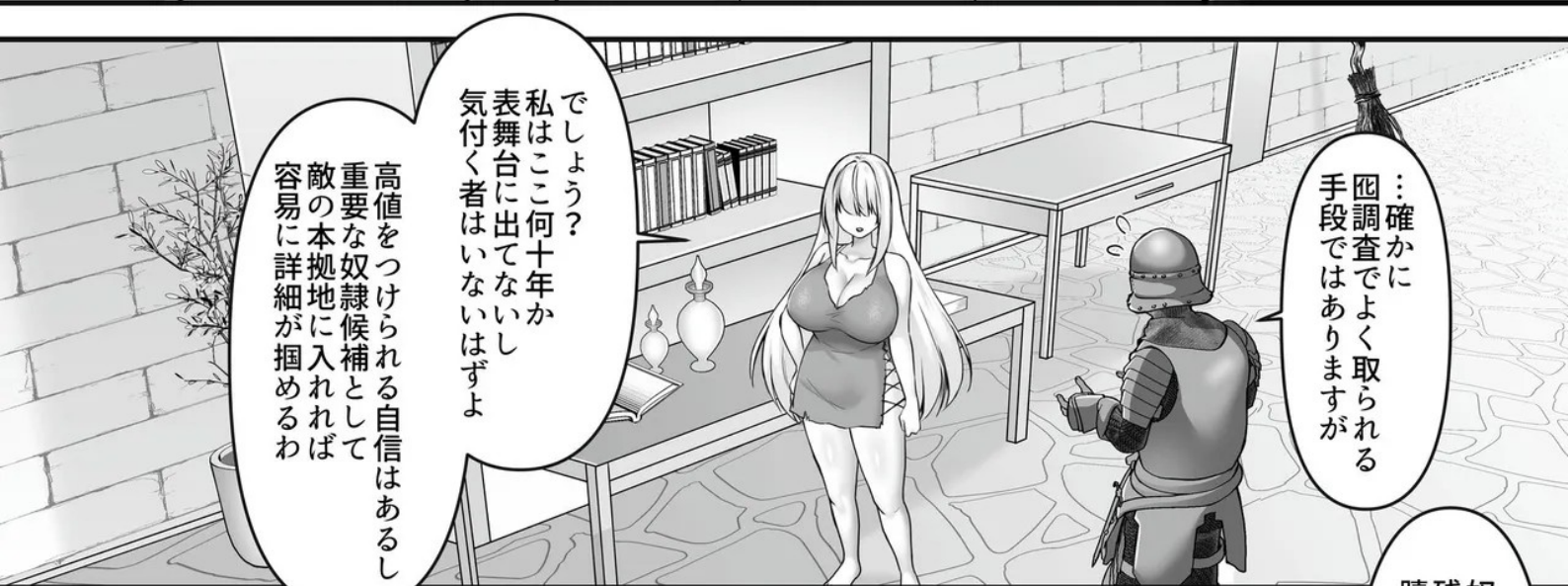
仕方ない！
手取り早く調査を進めましょうか



…なんでそうなるんですか？

あら
情報を得る戦略としては
よくある手じゃないかしら？

サフィラは
自身を奴隷として
組織に売り内部から
調査をしようとしていた



：確かに
囮調査でよく取られる
手段ではありますが

でしょう？
私はここ何十年か
表舞台に出てないし
気付く者はいないはずよ

高値をつけられる自信はあるし
重要な奴隷候補として
敵の本拠地に入れば
容易に詳細が掴めるわ

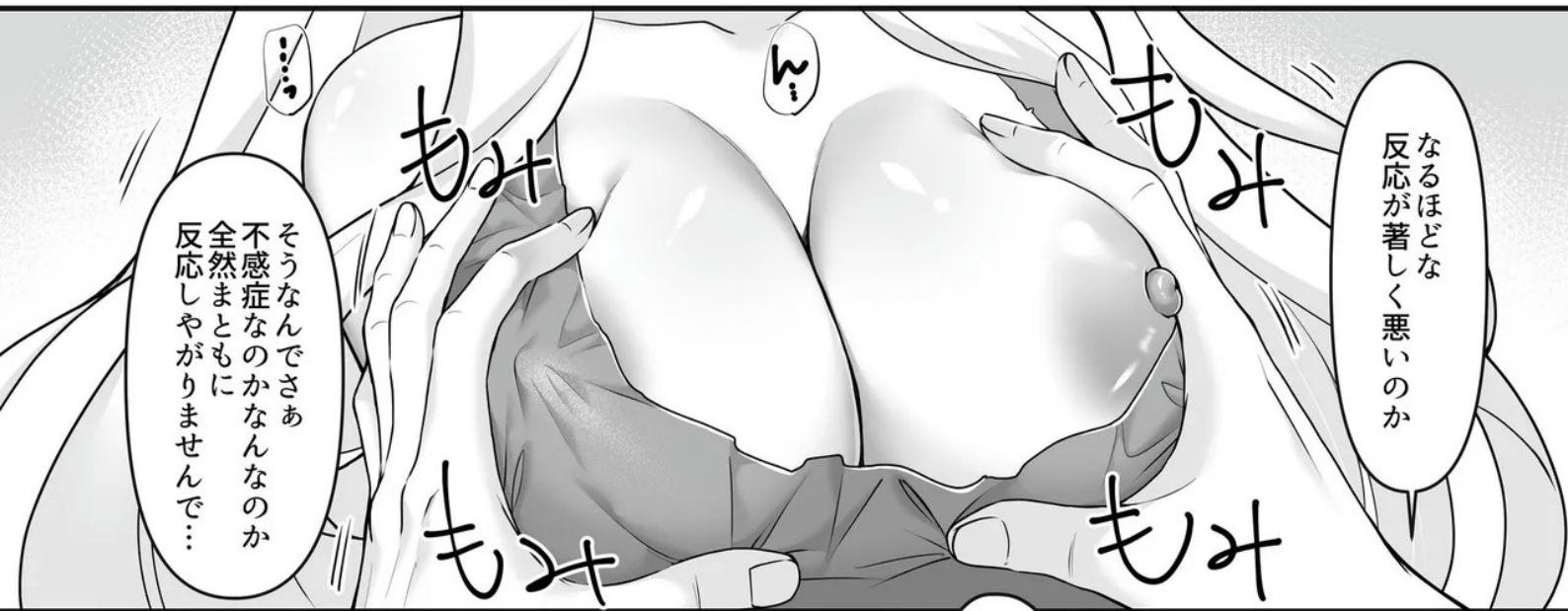


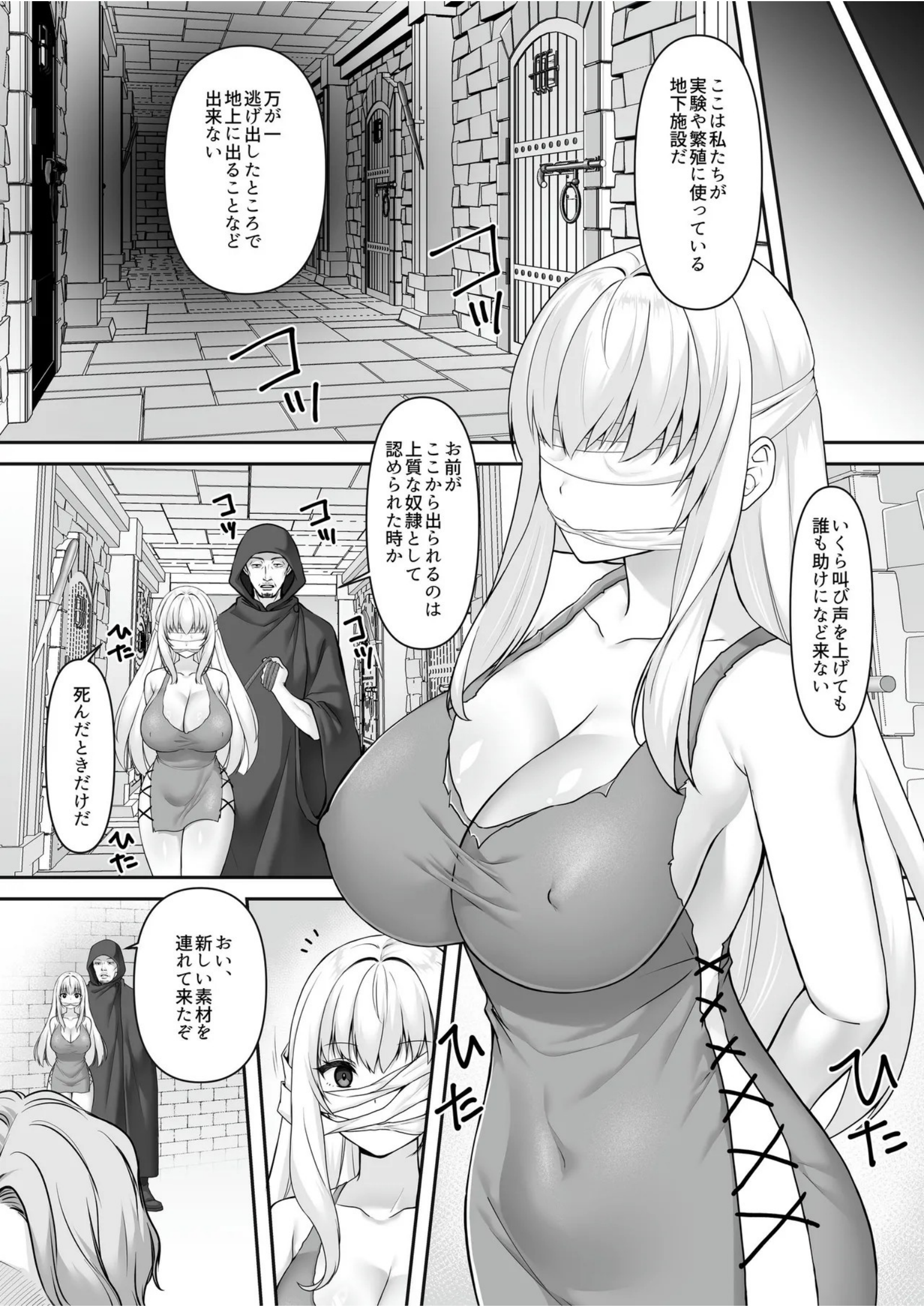
奴らは
残酷な手を使って調教するのを
躊躇わない連中です

どうなっても
知りませんよ

はっ
大賢者の私を
そんじょそこの娘つ子と
一緒にしないでくれる？

ふっ
ちゃんと策はあるから
あんたはバレないように
私を奴隷商人に引き渡せば
それでいいの





ここは私たちが
実験や繁殖に使っている
地下施設だ

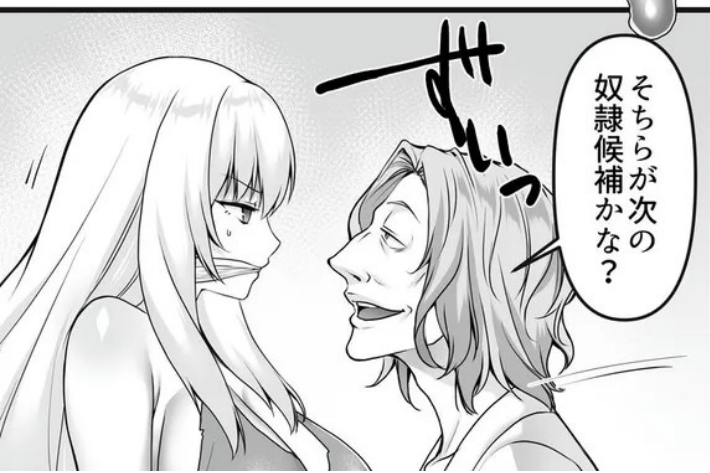
万が一
逃げ出したところで
地上に出ることなど
出来ない

お前が
ここから出られるのは
上質な奴隷として
認められた時か

いくら叫び声を上げても
誰も助けになど来ない

死んだときだけだ

おい、
新しい素材を
連れて来たぞ

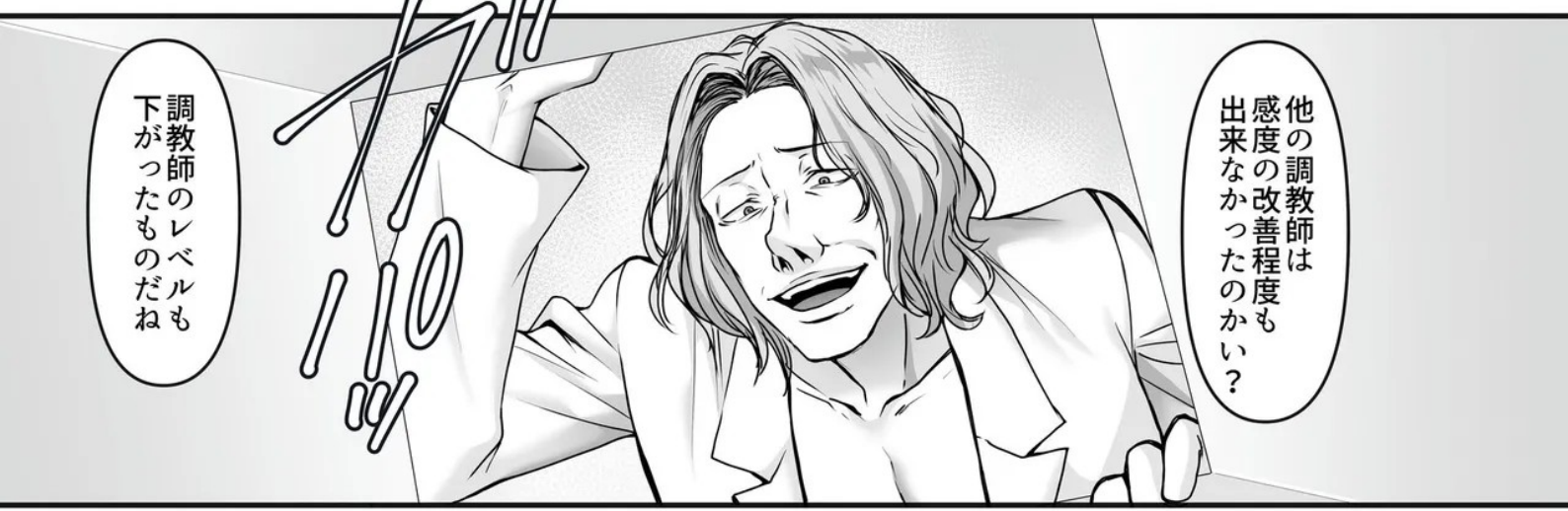




触れるだけで絶頂して
男に喜んで奉仕するような
仕上がりで頼む

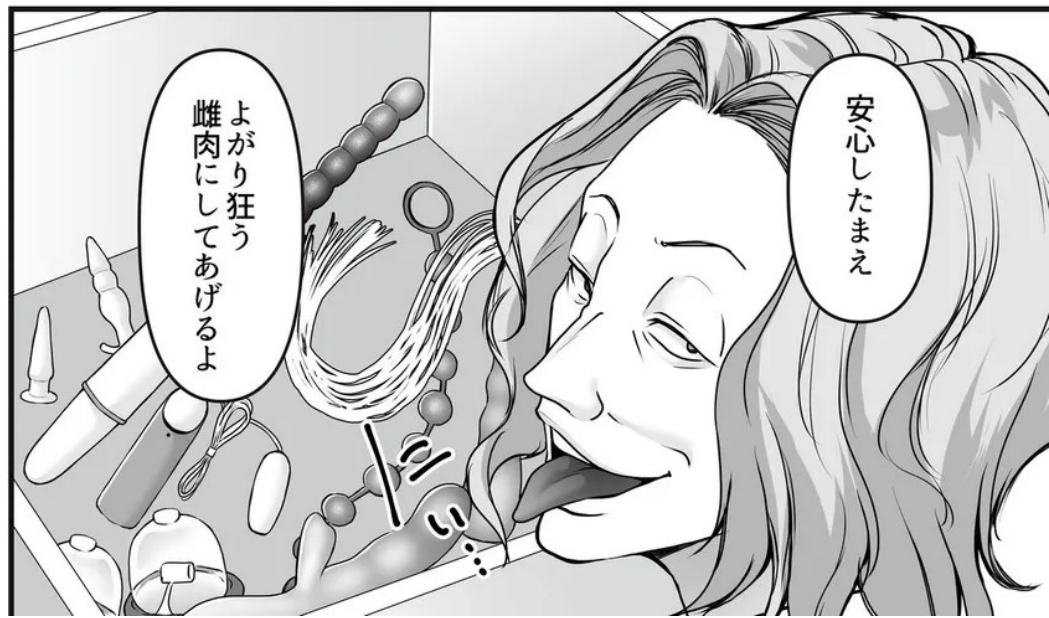


この通り
見た目は満点なんだが
反応が悪くてな



他の調教師は
感度の改善程度も
出来なかったのかい？

調教師のレベルも
下がったものだね



安心したまえ

よがり狂う
雌肉にしてあげるよ

数日後

くそっ
こいつの身体
どうなっているんだ？

ギシ...

普通の女なら
呼吸困難に陥るくらい
絶頂し続けている
はずなのに

神経系統が
死んでやがるのか？

んうっ

全く気付いている様子はないわね

特別な魔法を使っているというのに



感覚遮断魔法——

それは体が感じた感覚を
全て遮断することが出来る
魔法だった

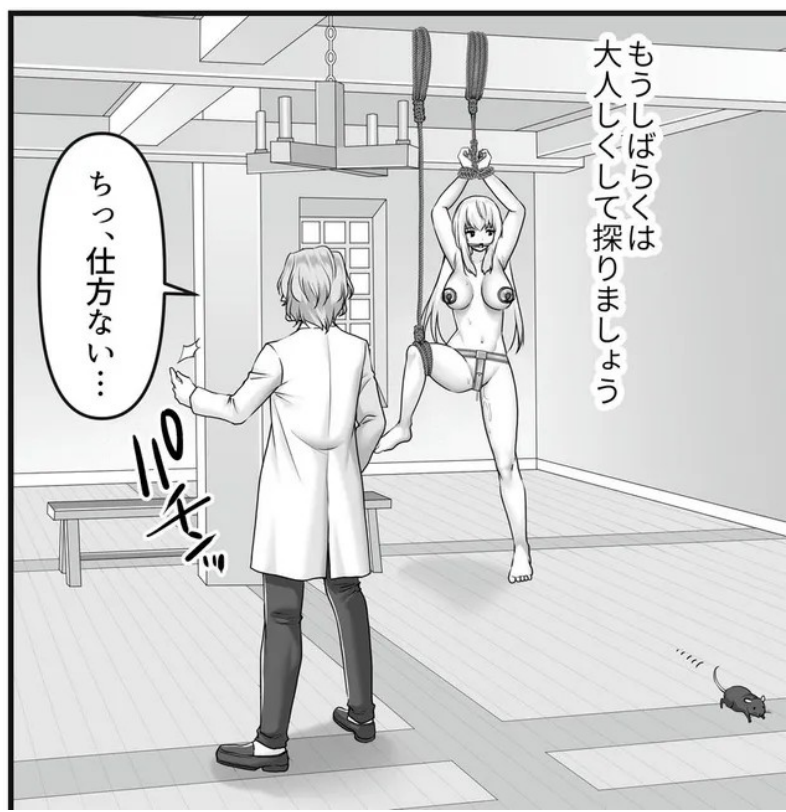
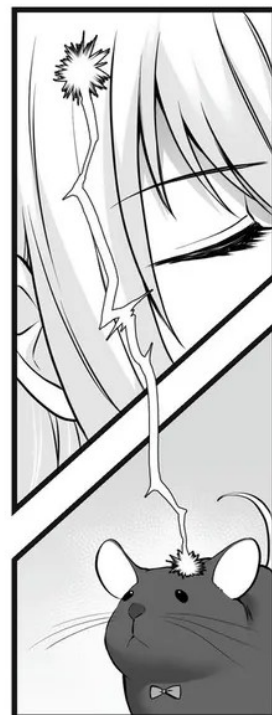
かつて彼女が
魔王討伐の旅を
していた頃

仲間が戦いの中で
重傷を負っても
戦い続けることが
出来るようにするため
生み出されたものだ

サフィラはその魔法を
改良し性的快感のみを
遮断することに成功していた

つまり——
魔法を解かない限り
いかなる方法でも
彼女を絶頂させることは
出来ないのだ

焦っているわね
ふっ
あれだけ豪語したんだから
できませんでしたとは言えない
でしょうしねえ





うわ……っ

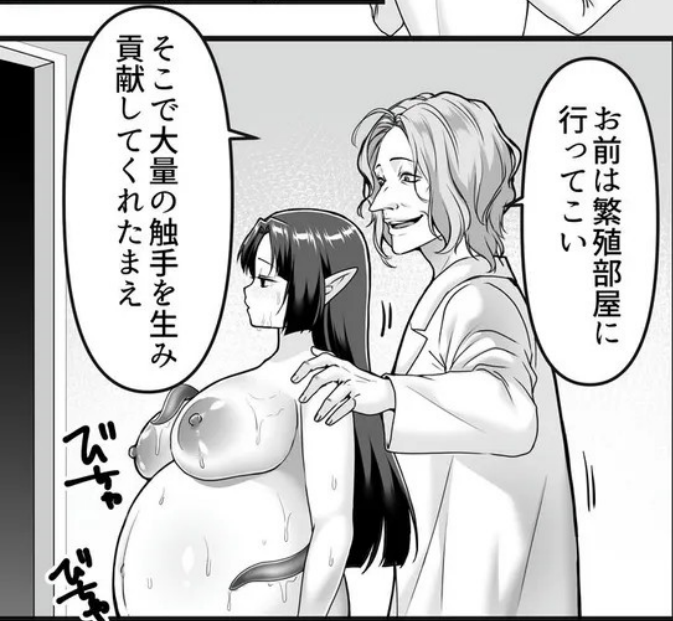


フラ……

フラ……

あー、
うー

よしよし、
立派な苗床に
なったようだね



そこで大量の触手を生み
貢献してくれたまえ

お前は繁殖部屋に
行ってこい

ふふふ……
ううう……



ヌチ……

クチャ……

ボト……

ふふふ……
恐ろしいかい？



びち……

びち……

びち……

君にプレゼントするのは
一本だけだ



あれと同じように
苗床にするわけ
じゃないから
安心したまえ

ううう……

ううう……

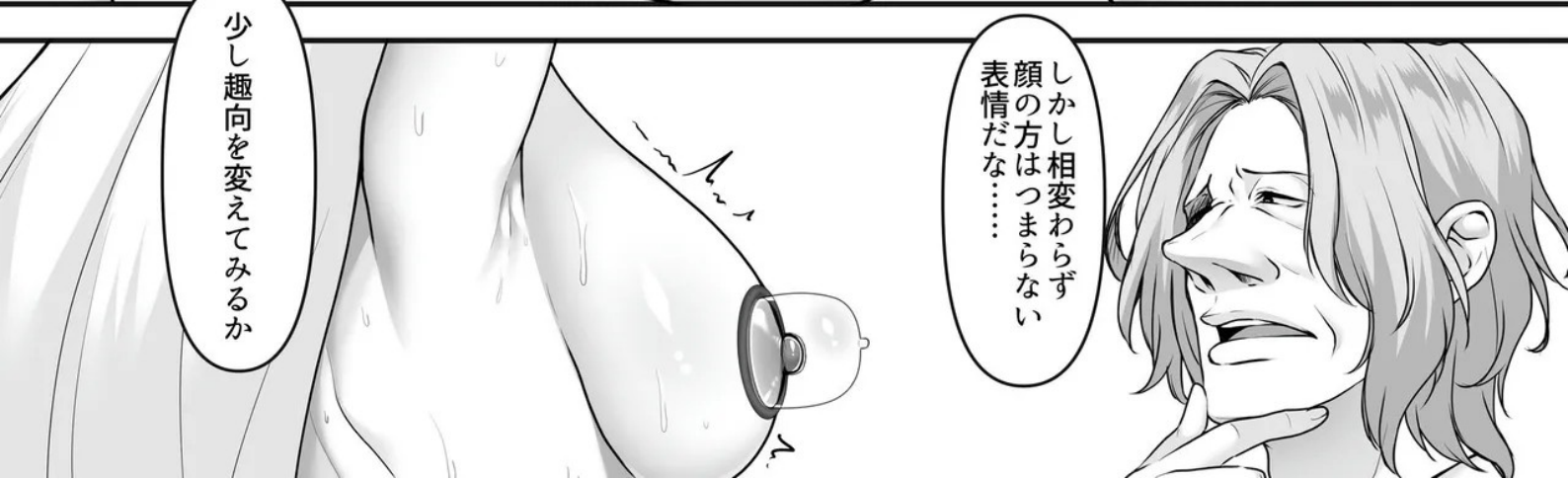


遮断魔法は効いているから
動いている以外は
感じないけれど



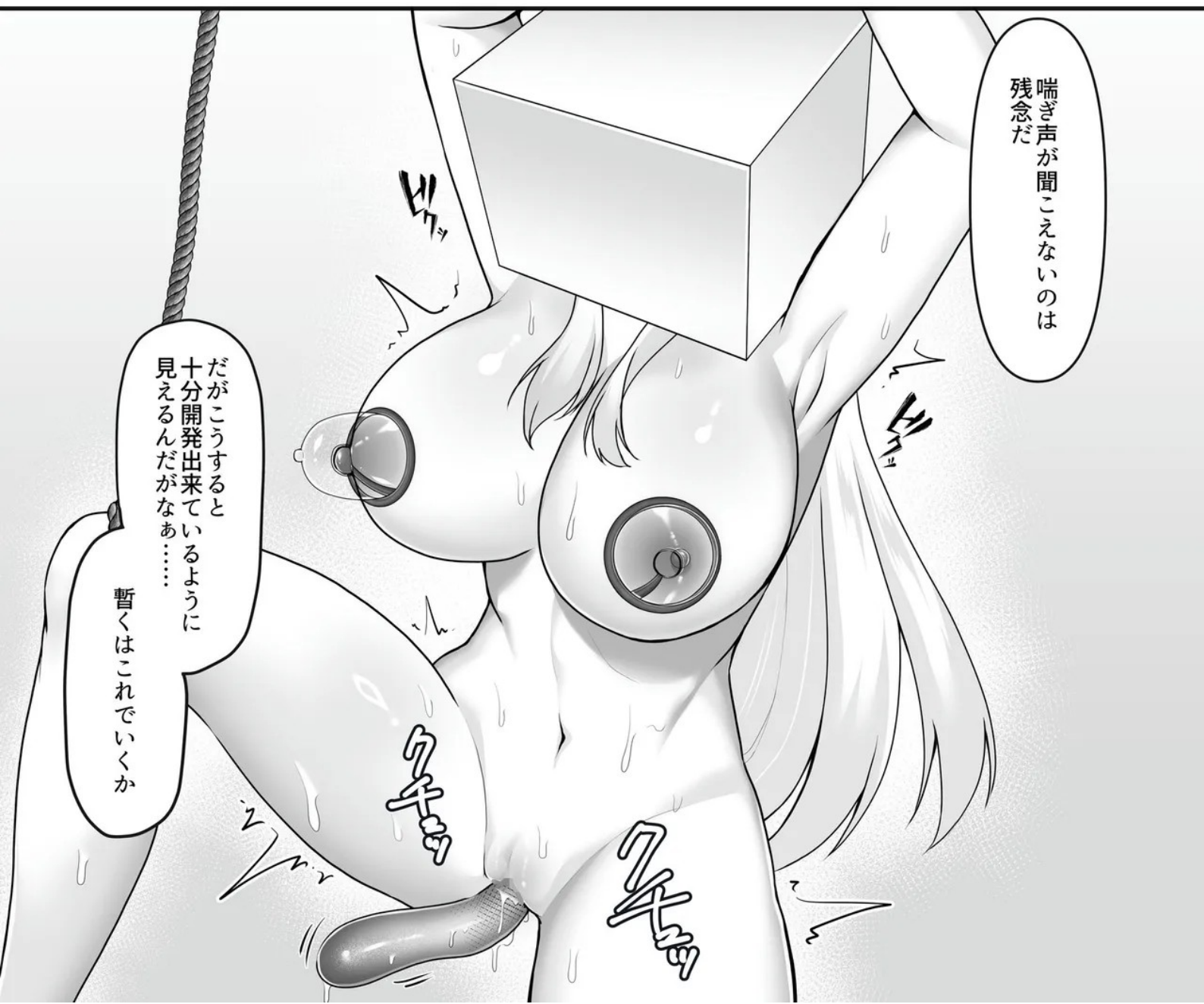
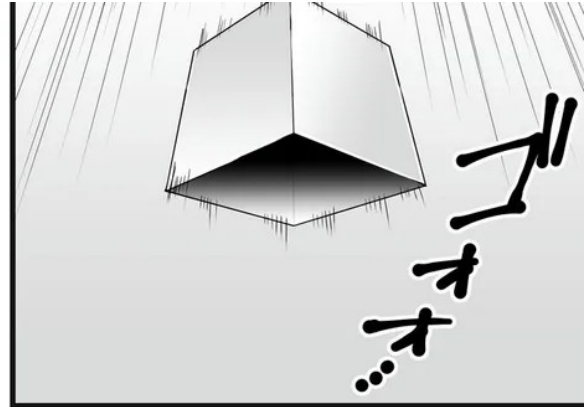
とんでもないものを
入れてくれたものね……!

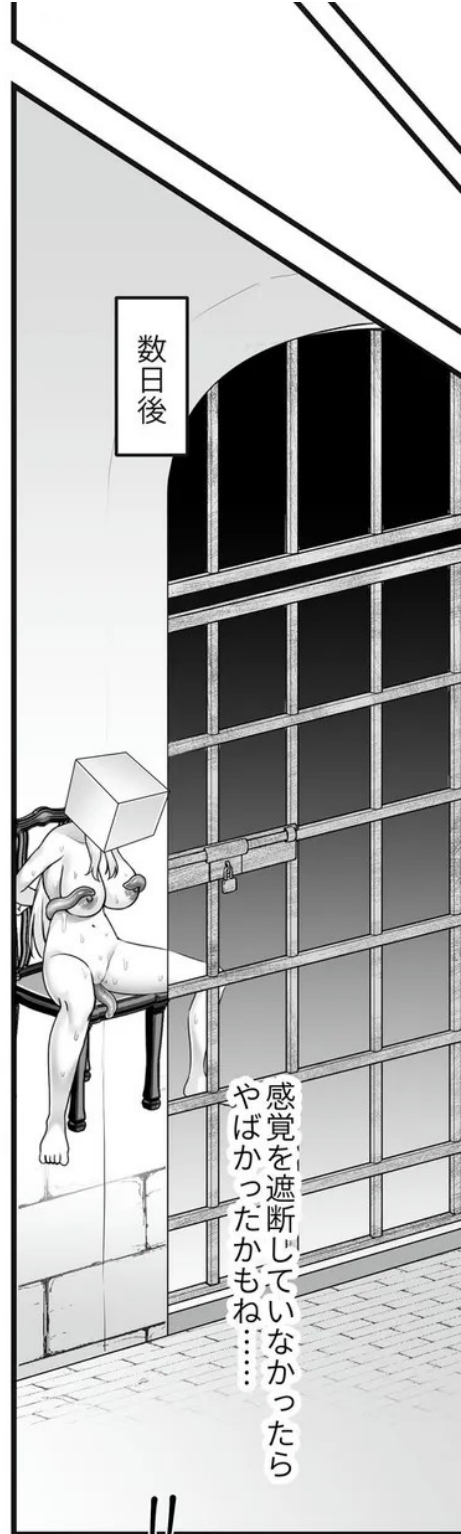
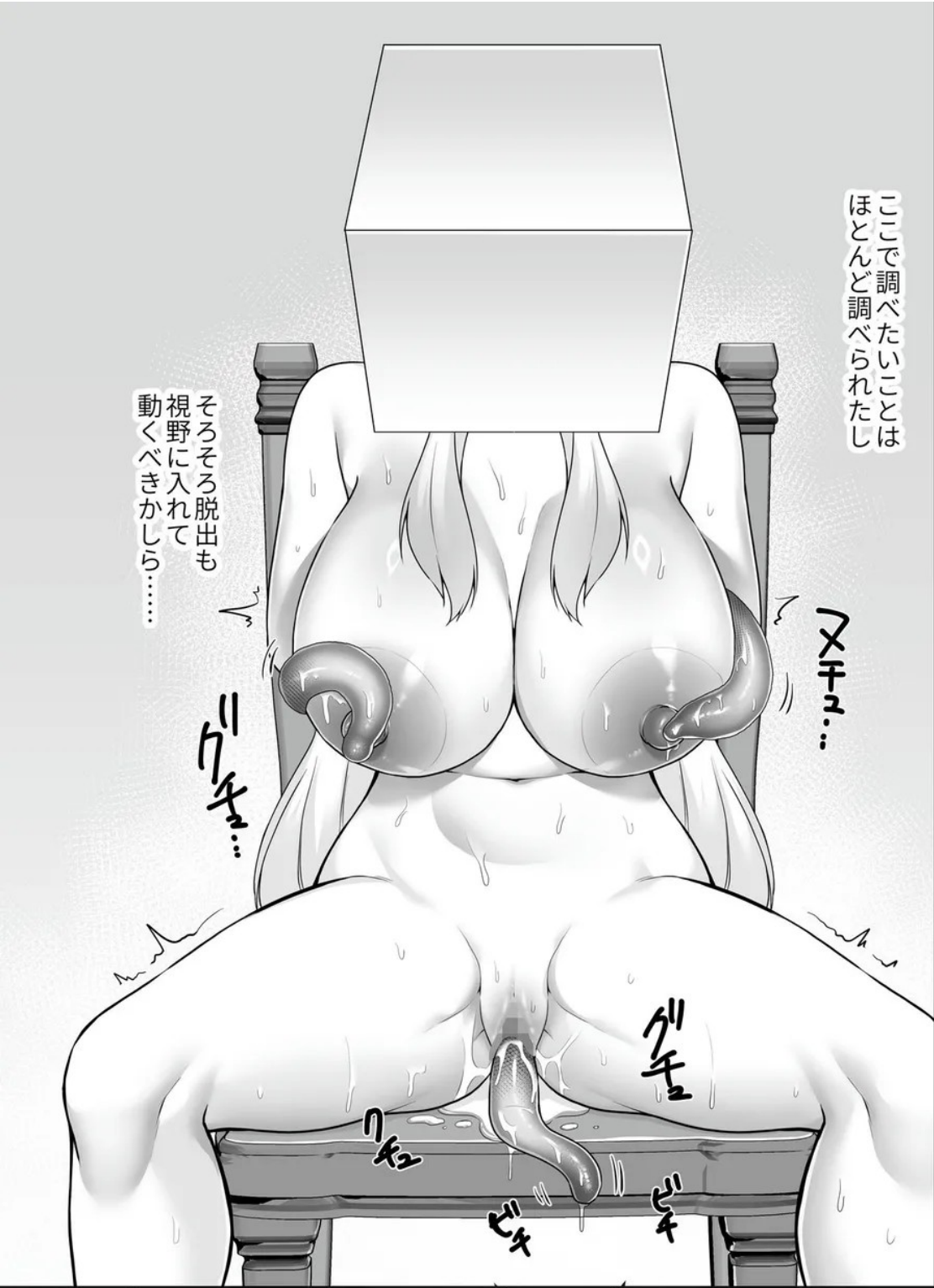
おお、
やっとなららしい
反応を見せてくれたねえ



しかし相変わらず
顔の方はつまらない
表情だな……

少し趣向を変えてみるか



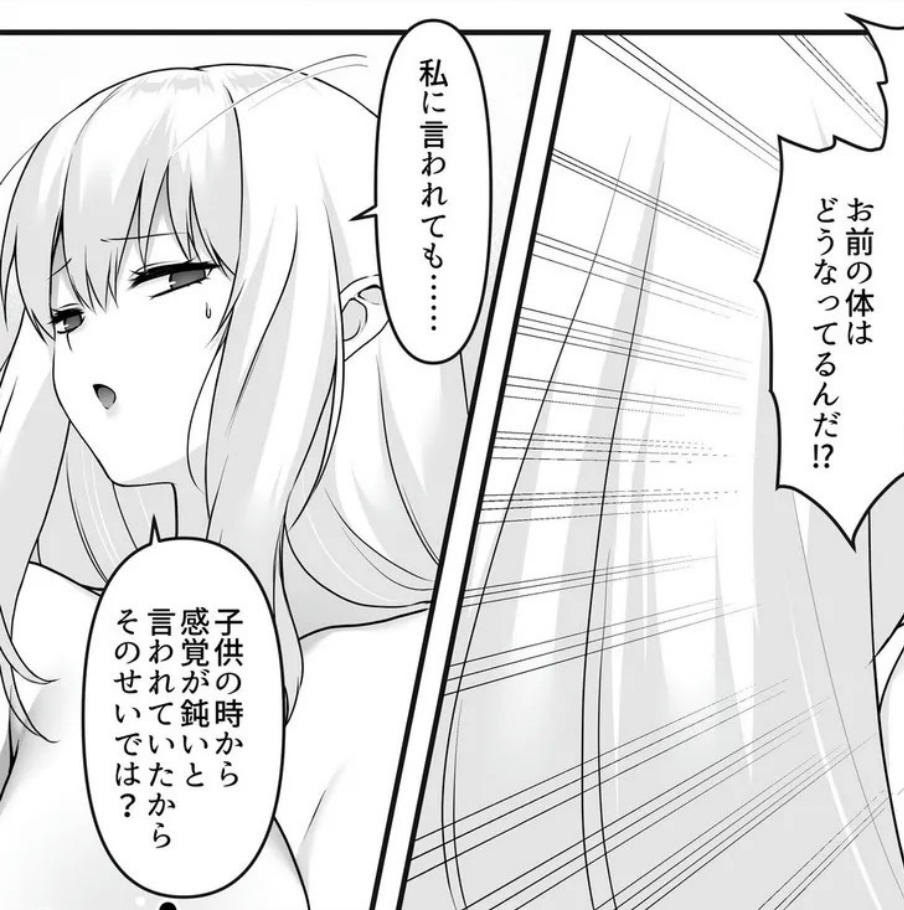




どう考えても
体の開発は
進んでいるんだ……



くそ……っ
こんな厄介な
案件だなんて
聞いてないぞ……！



私に言われても……

子供の時から
感覚が鈍いと
言われていたから
そのせいでは？



なんで頭の
脳の開発が進まない！

お前の体は
どうなってるんだ！？



感覚遮断魔法を緩めて
魔法を使えるようにしないと……



それじゃあそろそろ
脱出しようかしら

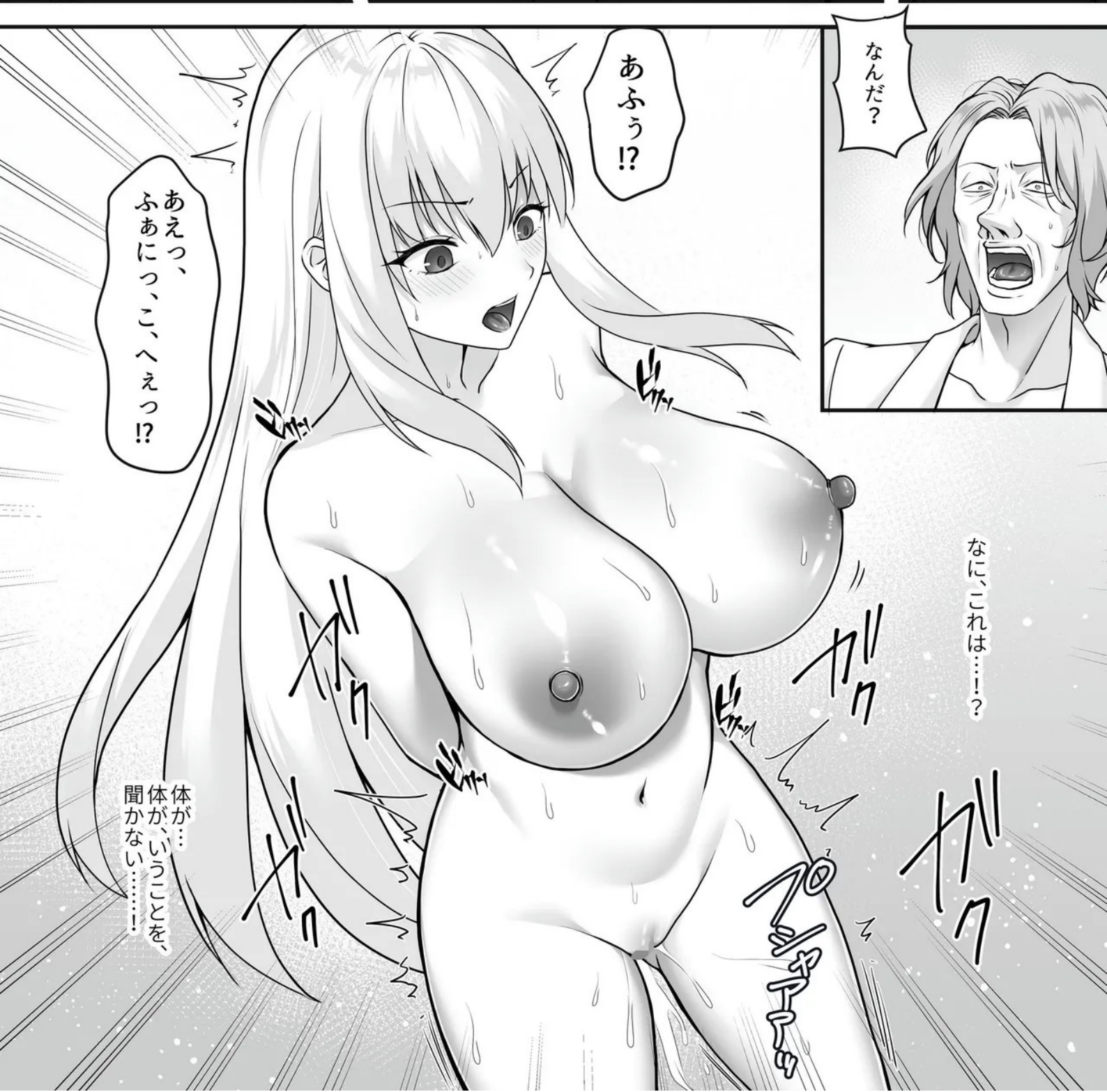
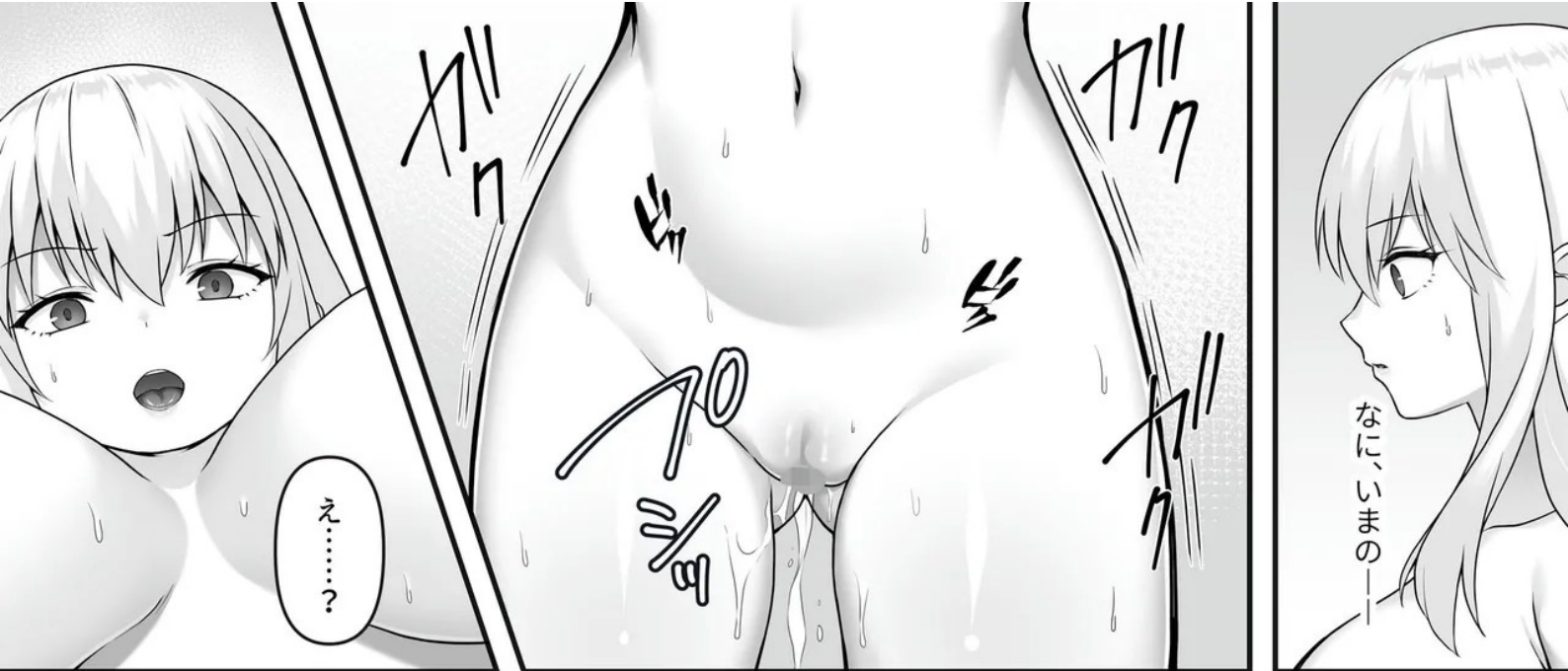
万策尽きたつてところね

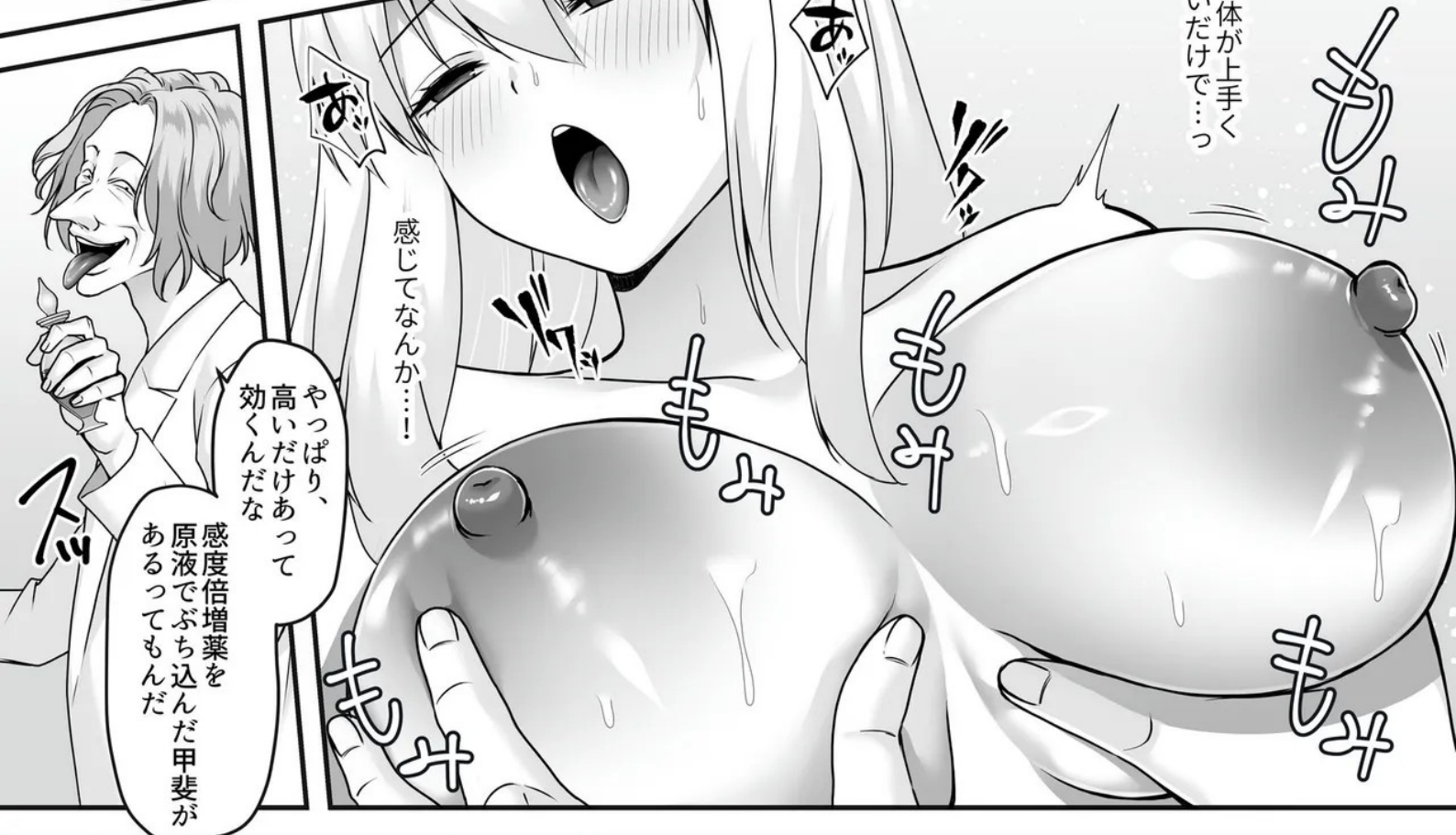
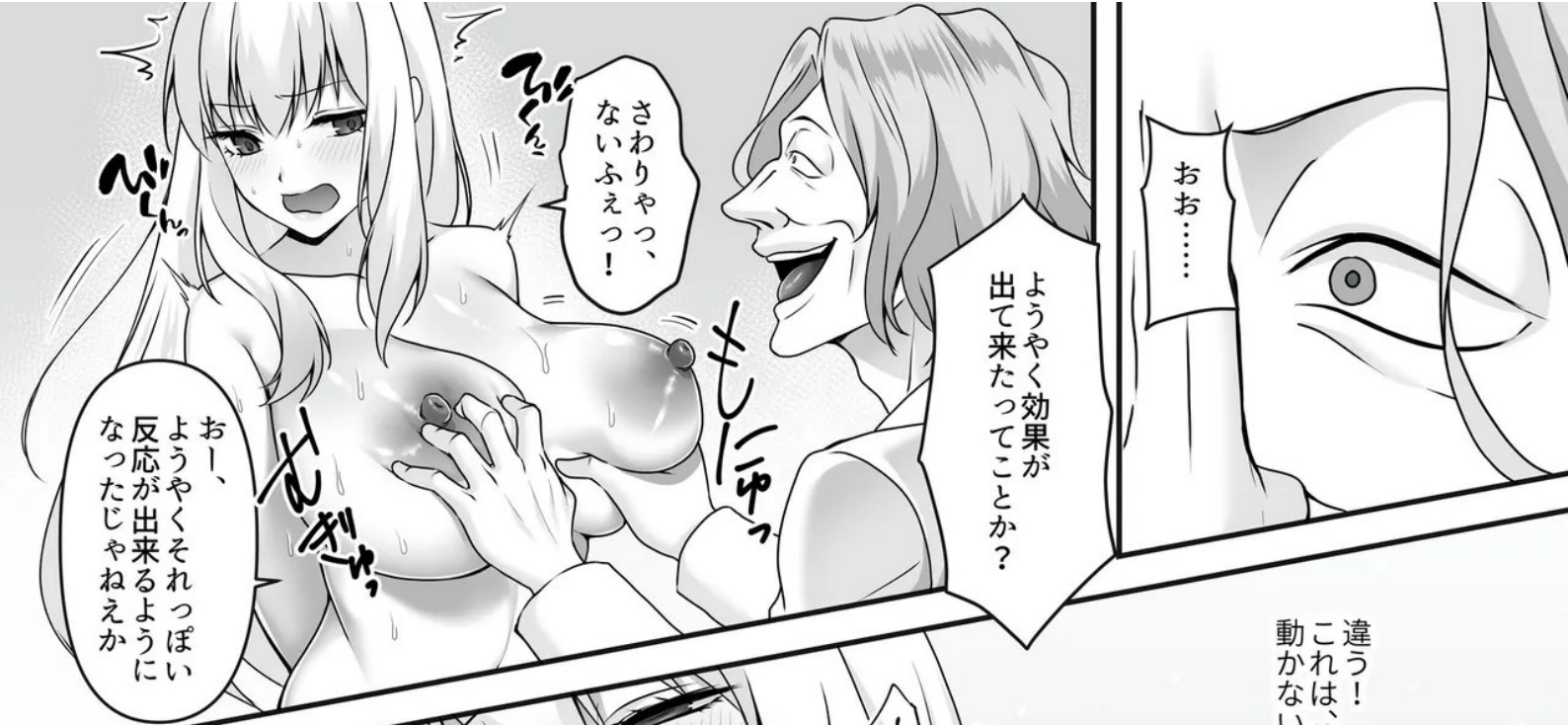


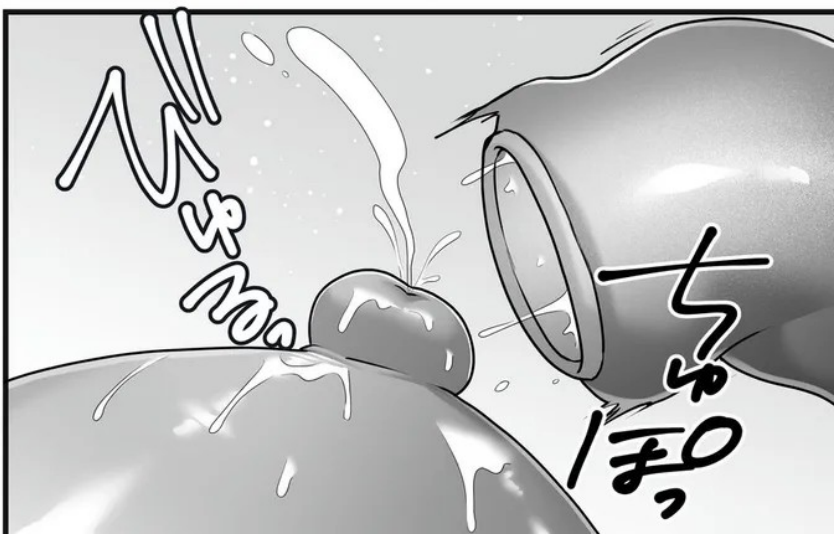
先天性の
疾患というわけか

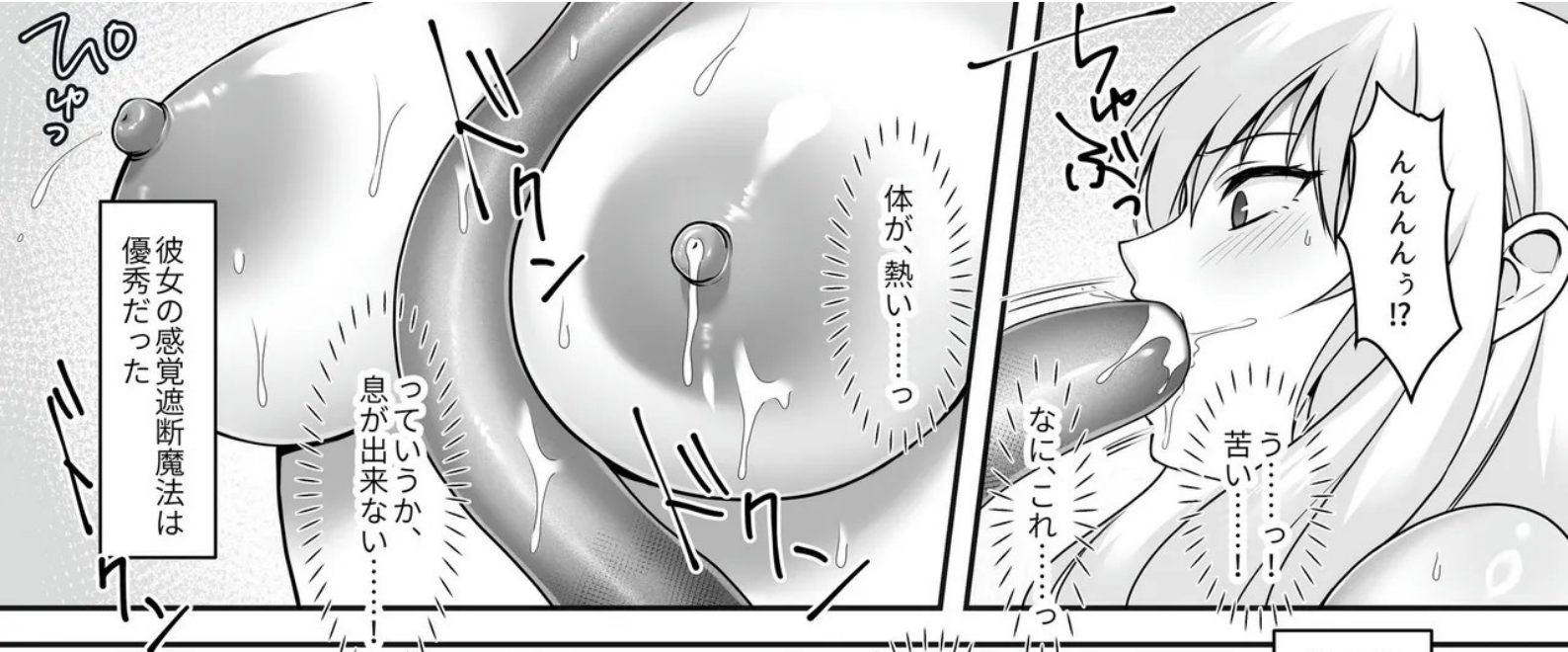
だがそれなら
その感覚を無理矢理
起こしてやれば
いいはずだ……

こんな仕上がりでは
とても満足して
いただけないだろう









彼女の感覚遮断魔法は優秀だった

体が、熱い……っ

んんんん!!

うっ……っ!
苦い……!

なにこれ……っ

っていうか、
息が出来ない……!

事ここにいたっても
サフィラは自分の体から
快感を覚えていいない

だが明らかに
尋常ではない刺激を
えられていることは明白

頭、ぼーっと、
して……っ

やばい……っ

サフィラは
感覚遮断魔法を解く
踏ん切りがつけられなかった

魔法を使うためには
現在発動させている
感覚遮断魔法を
解除しなければならない





えっ、うそっ、
なんでっ

私、そんなこと、
してな……ッ

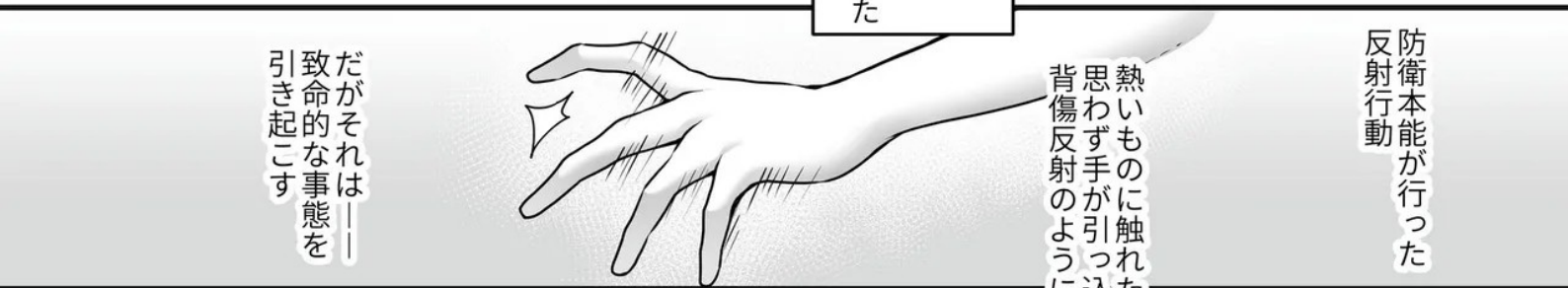
勝手に、魔力が、
集められ……ッ

異常なレベルの快感を
与えられたサフィラの体は
その原因を排除するために
魔法を発動させようとしていた



この私が……！
こんな……！

それは彼女の身体が
本能で行った
ことだった



防衛本能が行った
反射行動

熱いものに触れた時に
思わず手が引っ込む
背傷反射のように

だがそれは——
致命的な事態を
引き起こす



防衛用の魔法を
反射的に使用し
ようとした結果

感覚遮断魔法が
解除されてしまった



おごっ
おあああああああっ!!

おおっ!?
まさか触手の効果が
断絶していた神経が
修復されたのか!?

んああああああっ!

ふふふ...
これでまた一つ
いい事例が出来たな.....!

例え生まれつきの
不感症であつても
感じさせることが
出来るというわけだ!

しぬっ!
しんじやうっ!
しぬうううう!!

あたまつゝ、われるつゝ、
おまたつゝ、
もえるううっ!

からだのなか、
ぐちゃぐちゃ.....!

うごかないでええええッ



こいつは
調教のし甲斐が
ありそうだ

よし、一端出ろ

んひいっ!

んあ……っ、
おあ……っ、
おあ……っ

……

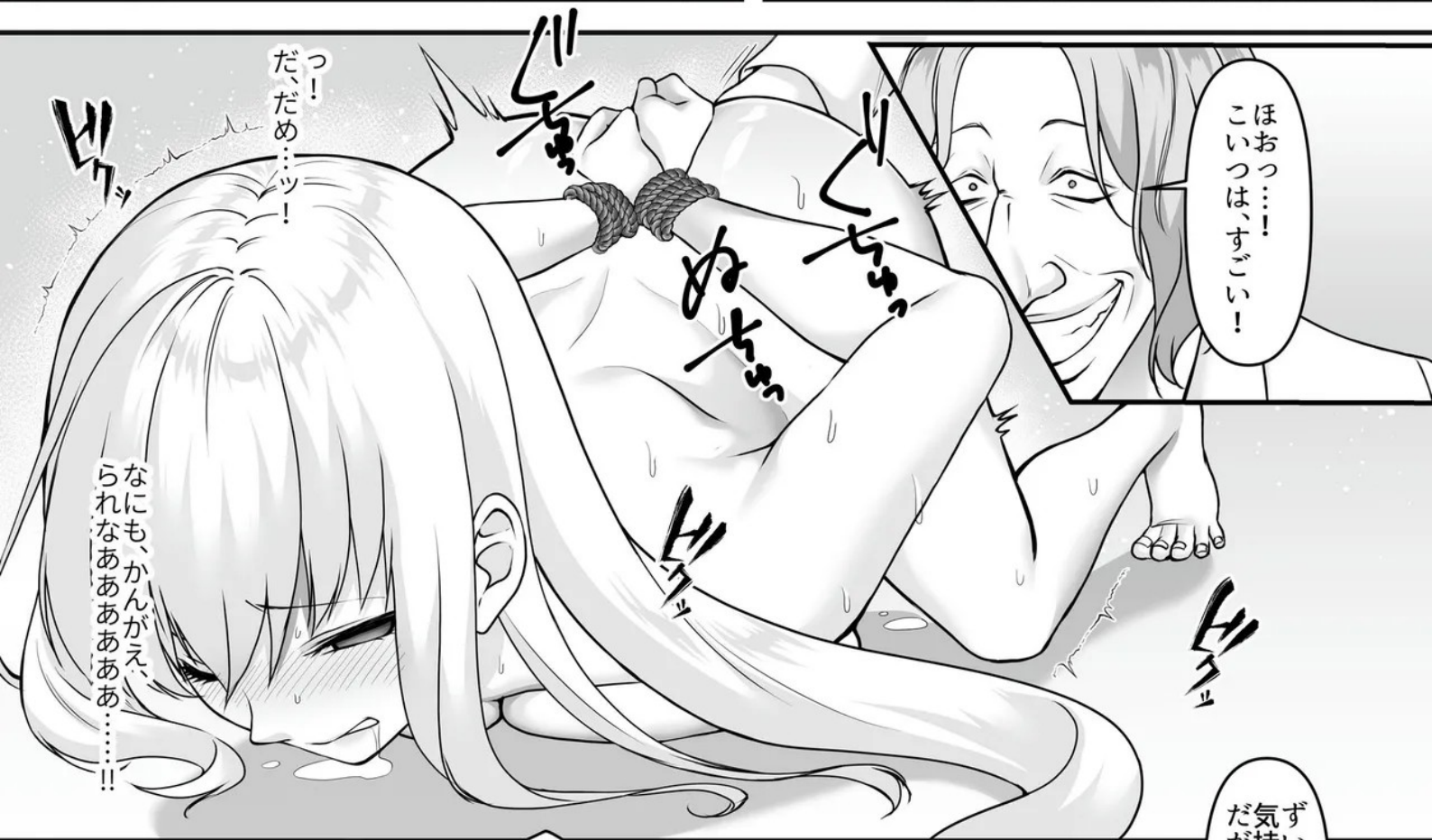
……

……



あーあ、
やりすぎだよお前
じつかりか
バマン

んぎいいっ！



ほおっ...！
こいつは、すごい！

なんにも、かんがえ、
られないあああああ...！！

っ！
だ、だめ...ッ！

ずいぶんと
気持ちよさそう
だが...



...っ！
いま、さう、
調教師らしい、
ことを...

ああああっ！？

誰が、そんなー

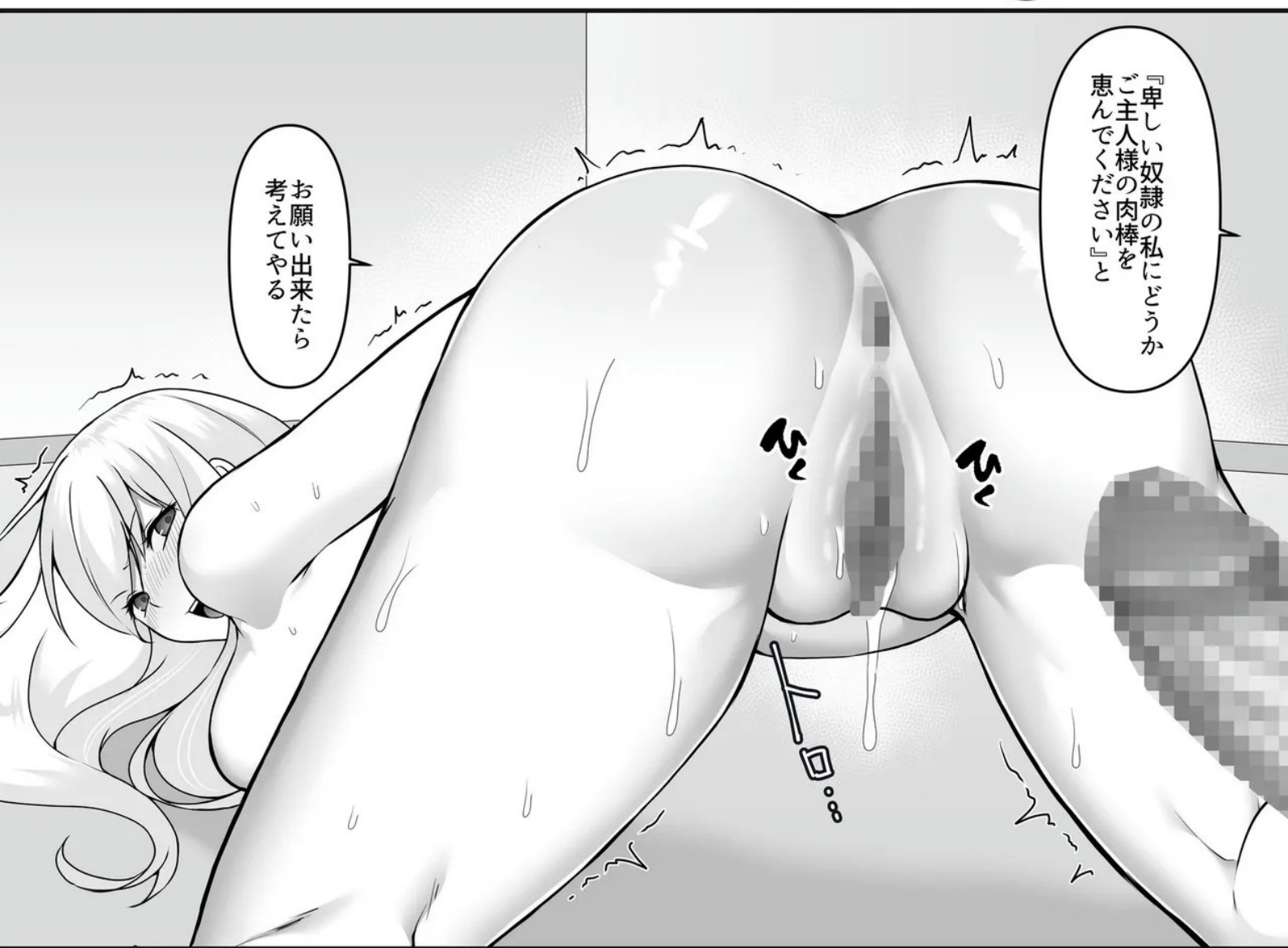
こっちの穴も
何か入れて欲しい
ようだが？

気持ちよくして
欲しいのなら
それ相應の態度が
あるだろう？

そんな、
ことお...



入れて欲しいと言え



『卑しい奴隷の私にどうか
ご主人様の肉棒を
恵んでください』と

お願い出来たら
考えてやる



だれが…っ！
あなたが如き
凡夫に…！！

んひい、
いいーっ！

んぎっ、
きもち、いい…ッ！

いグツ、
いぐウウツ……！

言わないなら
全身をガチガチに
拘束して放置するぞ

腕も、足も、顔も、
全部グルグル巻きにして
指先一つ動かせなくする

そんな、そんなの…っ！

指先一つ動かせない
何も見えない暗闇の中で悶える
その地獄に放り込むぞ

イヤア…!!

卑しい、
奴隷の私に…
どうかご主人様の
肉棒を…!!

おね、
お願い、します……

恵んで、
ください……!!

全く、
手古摺らせ
やがつて……!!

おらっ!
お望みのチンポだ!
心して味わえ!

んひいいいっ!

遅れた分、
しつかり奴隷としての
振る舞いを叩き込んで
やるからな!

あひいいいっ!

こうしてサフィラは
体も心も奴隷に
墮とされてしまった――

サファイラには
容赦のない調教が
加えられた

様々な責めを加えられ
 奴隸としての完成度を
 高められたサファイラ

いよいよ奴隷市場に
送られることになった
その日――

国王の直属軍が
そのアジトを摘発した

最近やたらと
高価な薬や道具を
運び込んだらどう？

くそ……ッ、
なぜ、ここが……！

あのレベルのものを
仕入れれば
当然足も着きやすくなる

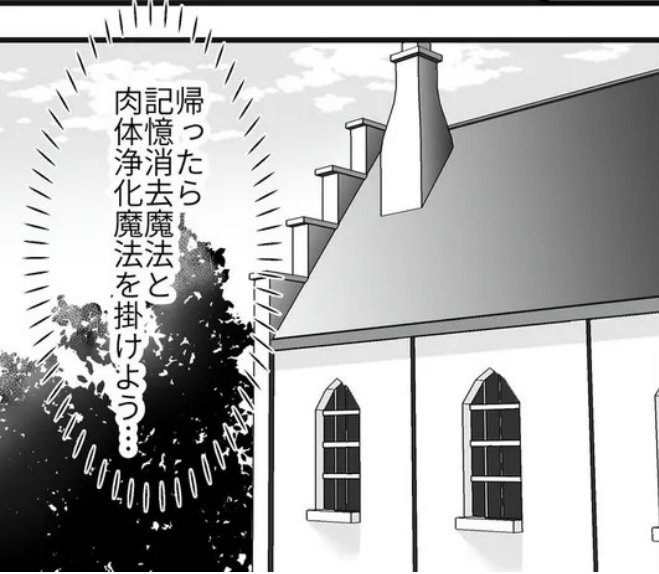
かなり長期間
巧妙にやってきたにしては
随分な手落ちだったな

自らを餌にすると
聞いた時は
正気を疑ったが
ものでした

あなたという
逸材を攻略するの
躍起になった
調教師の行動で

犯罪組織を
摘発することが
出来ました

いやあ、見事な
囲調査でした



あ と が き

お買い上げありがとうございます。作者のエルトリアです。
こちらのシリーズはかなりご無沙汰になってしまいました。
企画自体は2年前から動いていたのですが最初に発注していた漫画家さんが蒸発して
再出発になったり再発注先も途中で執筆辞退したりで遅れに遅れてしまいました。
(最終的にサークル所属の藍さんが描くことに)
ともあれ完成して無事に出せてほっとしております。
サフィラもアリシアと同じくサークルのIPとして育てたいんですけど中々苦戦中です。
(なんか知らんけどこの子の企画はトラブルが多い)
サフィラは強い癖に油断しがちで腋が甘かったり時々アホの子で可愛いんですけどね。
今回の作品が好評だったらもう一作品くらい新作を考えてみようかと思います。
次回は寄生触手服やりたいですね。
タイトルは『寄生賢者』とかどうでしょう(´ω´)
パラサイトラバー系統の作品がご無沙汰なのでアリかもしれない。
気になった方は是非是非、支援サイト等でコメントください。
同人活動は孤独な戦いなので貴方の感想が作者を救います(大袈裟
ではでは、また次回作でお会いしましょう！

エルトリア

「遮断賢者」

発行日：2025年10月7日

発行者：エルトリア

印刷所：西村謄写堂

連絡先：<https://ci-en.dlsite.com/creator/10273>

聖華快樂書店の各種リンクはこちら



無断転載、複写、複製、配布などの行為を固く禁じます。
Unauthorized reproduction prohibited



